

地盤工学会 会員・支部部

平成 20 年度第 2 回 地盤工学会 技術者教育委員会議事録(案)

日時：平成 20 年 6 月 18 日（水）15:30～

場所：名古屋大学工学部 9 号館 230 号室

参加者：中野，大橋，坪田，村田，前田，竹内

欠席：木村，小林（順不同，敬称略）

資料

資料 0：H20 年度第 1 回技術者教育委員会議事録(案)

資料 1：事業部員派遣関連資料

資料 2：第 43 回地盤工学研究発表会(広島) DS-7 運営関連資料

資料 3：第 2 期技術者教育委員会 7 試案現況照査関連資料

資料 4：データベースコンテンツ検討 関連資料（中野委員長・前田委員）

資料 5：第 3 期技術者教育委員会 中間報告

資料 6：スケジュール表

資料 7：継続システム委員会 平成 20 年度第 1 回議事録

資料 8：技術士講座関連資料他（坪田委員）

資料 9：地盤工学における 2007 年問題と技術の伝承アクションプラン（大橋委員）

資料 10：技術者の地位向上・社会貢献関連資料（村田委員）

議題

(0) 前回議事録確認

- ◆ 前回議事録確認。一部修正後（e-learning 費用：2000 万円→1100 万円）了承。

(1) 事業部 技術普及委員会 委員推薦

- ◆ 事業部派遣依頼説明。代表名として中野委員長とし、委員の持ちまわりで対応。

(2) 第 43 回地盤工学研究発表会(広島) DS-7【続 21 世紀を創る地盤工学セッションー地層処分における地盤工学ー】現況報告

- ◆ 趣意書説明。当日予定の確認（昼食会：坪田委員以外は出席）。
- ◆ 今年度からの参加者のため、開始前に座長もしくは副座長に本 DS の趣旨説明と、趣意書・昨年度の総括を配布資料として用意する必要がある。

(3) 7 試案の現況照査

- ◆ 広報委員会（宮田氏）：試案 7 市民むけの講習会（龍岡先生・納口氏）事例紹介。
→ 市民向けの講習会として参考にするべき。問題点として単発的であり，企画化されていない。
- ◆ 事業部技術普及委員会（古屋委員長）：講習会コース制，書籍の DVD 化，講習会のオンデマンド化の取り組み紹介。試案 1 に対応。

- ◆ 試案 5 技術士試験準備講座（坪田委員）：本部・関西支部・九州支部の当該講座の紹介。民間と比較し、受講者のコスト低い。合格率等提示すると受講者増につながる。応用理学（地質）分野が無い。通信講座コースも提供している。
→ 課題：開催できていない支部をどのように援助するか。→通信講座や教材を共有するシステムが必要，コース制講習会での対応を検討する必要あり。

まとめ

- ◆ 現況
試案 1：技術普及委員会 e-learning「液状化」で取り組み中。書籍の DVD 化，講習会のオンデマンド化も取り組む予定。
試案 5：本部・一部の支部で開講中。
試案 7：広報委員会で取り組み事例あり。
試案 6：第 3 期からの技術者交流セッション（趣旨，中長期計画とその具体案が不十分）
第 4 期 3.2：講習会コース制 技術普及委員会で本年度より開始。
- ◆ 第 5 期委員会が取り組むべき課題
 - ・全ての試案と関わり合うコンテンツとしてデータベース．活用目的とシステムを提案
 - ・試案 5：全支部へ展開するための運営方法の検討.
 - ・試案 7：重要性を確認し，企画化．また全支部へ展開するための運営方法の検討．「支部モデルケース」として発信する.
 取り組まれていない試案に対する方策 → データベース？ 新機軸：「技術の伝承」
 - ・新コンテンツ：技術の伝承→上記と同様に「支部モデルケース」として発信.
- ◆ 試案の現況調査と課題を整理し，中間報告書にとりまとめる。

(4) フリーディスカッション

* データベース

- ◆ 中野委員長よりデータベースコンテンツ案作成・説明。
- ◆ 研究者に様々なデータベースが存在する。フォーマットを優れたものにすることで、登録者・利用者も多くなる。建築系協会に良好なデータベースがあるとの情報。
- ◆ 学会のパワーは誰が何のために必要なのか。また民間会社同士のいざこざに利用される懸念がある。作成されたものの利用されないでは問題。利用する目的の明確化が必要。
- ◆ データベースの現況調査が必要。それらの効率化する方策を考える。

* 技術の伝承，技術者の地位向上・社会貢献

- ◆ 資料 9 説明(大橋委員)。背景として 2007 年問題の説明，対象技術の勘所等、文書化されていないところの伝承が問題。3 つのアクションを提示した。中部地質調査業協会の取り組み（ミニフォーラム 2008）の紹介。
- ◆ シルバー（プレミアム）会員の有効活用が必須。退職後、「学び直し」を希望する会員も多いし、「後輩に教えたい」会員もシニア会員には多いので，その方たちに対して、「場の提供」をしていく方針の提案。
- ◆ シルバー会員の問題点として、ボランティア的活動をする場合の現業者との仕事のすみ

わけがある。現業者に対して弊害となる活動は避けたい思いがある。それゆえに、活動を自ら抑制していることも考えられる。

- ◆ シルバー会員に関連して、技術者の地位向上に対しても専門家が専門家に評価される場だけでなく、市民に評価される「地域に貢献する場」を提供する方がよい。学会が専門家のためのものでなく、市民のためのものという意識改革（村田委員）。
- ◆ 公共事業が減少していくことで、一般住民の負担は増えている。専門家が必要となっている場は増えているので、学会がその受け皿になる活動をすればよい。
- ◆ 技術の伝承コンテンツ案として、各機関のシニアの方から人選から入り、企画等に関してはそのキーパーソンがコーディネートする形式を構築する。そういった仕組み・ルールを本委員会で作成する。中部土質試験共同組合のサロンをモデルケースとして実施する。
→ 7/15 各委員推薦人事リストアップ作成（大橋委員取りまとめ）。10月に第1回開催を目標とする。
- ◆ 技術の伝承に関しては地盤工学会員向けになる。別途、それをブラッシュアップし、市民を対象にした一般向けの場も提供する。こちらは地域に密接することが必須。官の窓口に関してリストアップ（村田委員）。
- ◆ 上記のプロジェクトの協力者に対しては、例えば「マイスター会員」の称号などメリットを与えていくことも必要。オンデマンド化・書籍化への対応も考える。

(5) 今後の予定

* 中間報告書 目次案作成

- ◆ 今回の議論を基に、地盤工学会誌へ直接投稿できるようなフォーマットのものを、先にまとめ、関連資料・議事録等を含めて中間報告書とする。中野委員長・大橋委員・竹内に対応。
- ◆ 中間報告書や今後の議事録はHP掲載していく。

* スケジュール表の確認

- ◆ 今回の議論をもとに、スケジュール表を再構成しなおす。

(6) その他

* 継続システム委員会 会議報告（竹内）

- ◆ 議事録説明報告。技術者教育委員会からも、以前議論にあった弁護士のG-CPD活用などコンテンツ提案。現況は事務的な作業がメインとなっているが、中身の議論にシフトすべくサポートする。

* 次回開催日程

8月7日(木) 15:30～ 於 名古屋大学